

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：34412

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02770

研究課題名(和文) 英語の複数動詞連鎖と直示性：単文を形成する複数動詞連鎖に注目した総合的研究

研究課題名(英文) Deixis and Multi-Verb Sequences in English: A Comprehensive Study of What Features a Multi-Verb Sequence Involving a Single Verb Phrase Contains

研究代表者

松本 知子 (Matsumoto, Noriko)

大阪電気通信大学・共通教育機構・准教授

研究者番号：40758554

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：英語には4種類の複数動詞連鎖がある。原則として、英語の複数動詞連鎖は「複文を形成する複数動詞連鎖」である。しかしながら、本研究は、直示動詞 come と go だけが、4種類の「単文を形成する複数動詞連鎖」のすべてに生起できることを示した。さらに、本研究では、直示動詞 come と go が第1動詞に生起する「単文を形成する複数動詞連鎖」の性質を、統語、意味、機能、及び歴史的变化の観点から総合的に考察することにより、「単文を形成する複数動詞連鎖」は、「複文を形成する複数動詞連鎖」の例外では決してなく、「単文を形成する複数動詞連鎖」も一貫して特性を示すことから、体系が存在することを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、統語、意味、機能、及び歴史的变化の観点からの総合的な考察こそが、「単文を形成する複数動詞連鎖」の特性を解明する上で、有効な方法であり、必須の方法であることを示した。研究成果の学術的意義として、本研究の実証性は、年月を経て、理論等の変更が生じても、その意義を失うことはないことが挙げられる。そして、本研究の実証性は、理論の影響を受けることが極めて少ないため「複数の動詞が連鎖しているにもかかわらず、単文を形成する」という現象の特性の一般化に寄与することを可能とした。このことは、本研究が、英語学ひいては一般言語学の動詞の研究に大きな貢献をすることを示すものである。

研究成果の概要(英文)：There are four types of multi-verb sequences in English, the V-V, V-and-V, V-to-V, and V-Ving sequences. Theoretically, a multi-verb sequence in English involves two verb phrases. However, this study showed that only two deictic verbs, come and go, occur in a multi-verb sequence involving a single verb phrase. Through examining what the nature of multi-verb sequences with the first verbs come and go is from a syntactic, semantic, functional, and historical standpoints, this study also showed that a multi-verb sequence that is part of a single verb phrase is not a rare exception to a multi-verb sequence that involves two verb phrases, and that it exhibits significant features. This means that there is a complex system for the multi-verb sequence with a single verb phrase.

研究分野：英語学

キーワード：複数動詞連鎖 直示動詞 直示性 モダリティ 単文 複文 コーパス 頻度

## 1. 研究開始当初の背景

英語には、4種類の複数動詞連鎖が存在する。本研究では、その4種類に対して、V-V 連鎖、V-and-V 連鎖、V-to-V 連鎖、V-Ving 連鎖という用語を用いる。原則として、英語では、1つの動詞(句)には、ただ1つの動詞しか含まれない。従って、1つの動詞(句)を含む文は、単文を形成し、2つの動詞(句)を含む複数動詞連鎖から成る文は、複文を形成する。しかしながら、本研究開始前に、本研究代表者(Matsumoto 2015)は、4種類の複数動詞連鎖のすべてにおいて、2つの動詞(句)が含まれているにもかかわらず、単文を形成する複数動詞連鎖が存在すること、そして、第1動詞としての直示動詞 *come* と *go* は、複文を形成する複数動詞連鎖には生起できないが、単文を形成する複数動詞連鎖には生起できることにすでに確認していた。このような状況のもとで、本研究代表者は、「単文を形成する複数動詞連鎖」の性質を解明するために、直示動詞 *come* と *go* が第1動詞に生起する「単文を形成する複数動詞連鎖」に着目し、「単文を形成する複数動詞連鎖」の新しい体系を示す、という本研究の着想に至った。

## 2. 研究の目的

本研究の全体構想は、直示動詞 *come* と *go* が第1動詞に生起する「単文を形成する複数動詞連鎖」の性質を、統語、意味、機能、そして歴史的变化における観点から、総合的に考察することにより、「単文を形成する複数動詞連鎖」を新しく体系化することである。

具体的な研究目的は、以下の5つである。

- (1) 形成メカニズムを解明する。
- (2) 構成素の意味的特徴の詳細な記述を行う。
- (3) 共時的コーパスから得られた機能的特徴と方言差に関するデータの分析と考察を行う。
- (4) 通時的コーパスから得られた頻度の変化に関するデータの分析と考察を行う。
- (5) (1)から(4)の研究成果を踏まえて、4種類の個々の「単文を形成する複数動詞連鎖」の特徴の通連鎖的な位置づけを行う。(本研究では、「通連鎖的」という用語を、「連鎖間を横断して」と定義している。)

## 3. 研究の方法

統語、意味、機能、そして歴史的变化における総合的観点から、本研究では以下の5つの研究項目を実施した。(1)から(4)は、4つの個々の連鎖に対して実施した研究項目であり、(5)は通連鎖的に実施した研究項目である。

- (1) 複数の共時的コーパスを使い、「第1動詞の屈折の分類」、「第2動詞に生起する動詞の分布」、「使用分野別頻度の分布」、そして、「英語圏と言われる20の国と地域における方言差」のデータを分析し、その結果を考察する。  
本研究で用いる共時的コーパスは、The Collins Wordbanks Online, The British National Corpus, The Corpus of Contemporary American English, The Corpus of Global Web-Based English, The TV Corpus, The Movie Corpus, The Coronavirus Corpus である。
- (2) 複数の共時的コーパスから得られたデータの分析結果を用いて、主語、第2動詞、そして連鎖そのものの自体が持つ意味的特徴を詳細に記述する。
- (3) 本研究が提唱する「副詞テスト」を用いて、「複文を形成する複数動詞連鎖」の形成メカニズムと「単文を形成する複数動詞連鎖」の形成メカニズムの違いを実証的に示す。
- (4) 通時的コーパス(The Corpus of Historical American English)を使い、20世紀以降の頻度の変化の理由を追究する。これは、いかなる理由で、頻度の増加・減少が生じるのか、あるいは、頻度に変化が生じないのかを明らかにすることである。特に、頻度の増加は、「文法化」あるいは「構文化」と密接に関係しているので、「文法化」あるいは「構文化」を引き起こしているのか否かも、あわせて明らかにする。
- (5) (1)から(4)の研究成果を踏まえて、通連鎖的に4つの個々の「単文を形成する複数動詞連鎖」の特徴を位置づける。

#### 4. 研究成果

英語の複数動詞連鎖の研究においては、統語的および意味的観点から、「複文を形成する複数動詞連鎖」の性質を示す先行研究は数多くある。その反面、先行研究において、「単文を形成する複数動詞連鎖」は、研究対象として取り上げられることがほとんどなく、「複文を形成する複数動詞連鎖」の例外という扱いを受けることが多かった。本研究では、「単文を形成する複数動詞連鎖」は、「複文を形成する複数動詞連鎖」の例外では決してなく、「単文を形成する複数動詞連鎖」も一貫した特性を示すことから、体系が存在することを示した。そして、統語、意味、機能、そして歴史的变化における総合的観点から、本研究が示した「単文を形成する複数動詞連鎖」の体系は、今までになかったものであり、これまでの研究成果からの進歩を示すものである。

先行研究によると、「2つの動詞(句)があるにもかかわらず、単文を形成する」という現象は、英語以外の言語にも見られる現象である。しかしながら、本研究以外に、英語に「2つの動詞(句)があるにもかかわらず、単文を形成する」という現象が見られることを指摘する先行研究は少ない。先行研究の問題点は、この現象の特性の解明に、言語ごとに異なる理論が用いられたために、この現象に対する通言語的な説明がないことである。(本研究では、「通言語的」という用語を、「言語間を横断して」と定義している。) 統語、意味、機能、そして歴史的变化における総合的観点から行われている本研究の実証性は、理論の影響を受けることが極めて少ないため、「2つの動詞(句)があるにもかかわらず、単文を形成する」という現象の特性の一般化に大きく寄与することが期待される。また、英語学ひいては一般言語学の動詞の研究に大きな貢献をするものであると期待される。

英語の複数動詞連鎖に関する国内外の研究方法は、作例と内省によるものが中心であったが、2000年代に入り、研究方法の転換期に入り、作例と内省による研究方法を維持しつつ、仮説に応じて、コーパス、実験、調査などを組み合わせる実証的研究が行われるようになった。その研究動向には、現在もまだ発展の余地がある。本研究もその研究動向に沿い、コーパスを用いる研究方法を採り入れた。国内外のコーパスを用いる研究方法では、通常、1つのコーパスを用いるが、本研究では複数のコーパスを用いた。コーパスの組み合わせにより、研究の幅が大きく広がることから、複数のコーパスを用いる方法は、今後のコーパスを用いる研究の中心になっていくと思われる。本研究の成果である、複数のコーパスを用いた研究 (Matsumoto 2020, 2021) は海外で評価を受けているため、本研究において、複数のコーパスを用いた現時点での最先端の研究を行うことができたと考えている。以上のことから、本研究は、英語学ひいては一般言語学の動詞の研究に加えて、コーパスを用いる研究においても、今後、大きな貢献をするものであると期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Matsumoto, Noriko	4. 巻 31
2. 論文標題 Developing One Corpus-Based Grammar Textbook about Irregular Multi-Verb Sequences in English	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Applied Linguistics	6. 最初と最後の頁 264-282
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ijal.12322	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto, Noriko	4. 巻 N/A
2. 論文標題 A Genre-Based Analysis of Evaluative Modality in Multi-Verb Sequences in English	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Re-Assessing Modalising Expressions: Categories, Co-Text, and Context	6. 最初と最後の頁 223-252
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1075/slcs.216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto, Noriko	4. 巻 12
2. 論文標題 The Come-V and the Come-and-V Sequences in Present-Day American English	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kobe Papers in Linguistics	6. 最初と最後の頁 80-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 0件／うち国際学会 14件）

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 Expressing Counter-Normative Stance in the Verb Go
3. 学会等名 The 6th International Conference of Asia-Pacific LSP (Languages for Specific Purposes) & Professional Communication Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Matsumoto, Noriko
2 . 発表標題 A Future Possibility of English Language Teaching Based on Learner and Native-Speaker Corpora: A Case of the Go/Come-Ving Sequences
3 . 学会等名 The 2nd International Conference on Language Teaching and Learning 2021 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Matsumoto, Noriko
2 . 発表標題 The Change from the Come/Go-and-V Sequence to the Come/Go-V Sequence over the Last 80 Years
3 . 学会等名 The 17th International Pragmatics Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Matsumoto, Noriko
2 . 発表標題 A Syntactic Asymmetry between the Come-to-V and the Go-to-V Sequences in English
3 . 学会等名 The 11th International Conference on Construction Grammar ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Matsumoto, Noriko
2 . 発表標題 The Ongoing Change from the Remain-UnVed Sequence to the Go-UnVed Sequence
3 . 学会等名 The 42nd ICAME (International Computer Archive of Modern and Medieval English) Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 A Fundamental Rethink about Corpus-Based Pedagogical Grammar: A Case Study of Irregular Multi-Verb Sequences in English
3. 学会等名 The British Association for Applied Linguistics 2021 Conference (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 Designing a Grammar Textbook on Multi-Verb Sequences with the Deictic Motion Verbs in English
3. 学会等名 The Workshop Motion 2021: Can Motion Event Construal Be Taught or Restructured? Evidence from Bilinguals and L2 Learners (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 The Historical Development Patterns of the Go-Ving Sequence in English
3. 学会等名 The 2021 NARNiHS (The North American Research Network in Historical Sociolinguistics) Research Incubator (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 Ongoing Historical Development of the Gonna-V and the Go-V Sequences in English
3. 学会等名 The 24th International Conference on Historical Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 The Complex Interaction of Construal Operations: Multi-Verb Sequences in World Englishes
3. 学会等名 The 15th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 The Expression of Counter-Normative Stance in Multi-Verb Sequences with Go as V1 in English
3. 学会等名 The 16th International Pragmatics Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 The Significant Relationship between the VP-and-VP and the V-and-VP Constructions in English
3. 学会等名 The 10th International Conference on Construction Grammar (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 Variations in the Frequency of V-V Sequences on English among 20 Different English-Speaking Countries
3. 学会等名 The 14th International Cognitive Linguistics Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsumoto, Noriko
2. 発表標題 The Constructionalization of 'Don't Go Ving'
3. 学会等名 The 37th ICAME (International Computer Archive of Modern and Medieval English) Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

Noriko Matsumoto - Osaka Electro-Communication University  
<https://www.osakac.ac.jp/labs/matsumoto/>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------